

平成 30 年 2 月 岡崎市文化財保護審議会会議録

開催日時：平成 30 年 2 月 27 日（火） 午後 2 時 00 分～午後 4 時 50 分

開催場所：岡崎市役所西庁舎 7 階 西 701 号室

出席委員：11 名

加藤安信委員（会長）・野本欽也委員（会長職務代理者）・内田尚之委員・
荻野嘉美委員・奥田敏春委員・小林吉光委員・杉坂美典委員・杉野丞委員・
鷹巣純委員・山田伸子委員・渡邊幹男委員

説明のために出席した事務局職員：7 名

社会教育課：小野鋼二課長・荻野泰久副課長・柴田英代文化財係長・
小幡早苗主任主査・山口遥介主査・浅井幸恵主事・中根綾香主事

傍聴者：なし

議事内容

1 諮問事項

市指定史跡の史跡範囲の追加指定について【非公開】

2 報告事項

- (1) 旧額田郡公会堂及物産陳列所保存活用計画のパブリックコメント結果について
- (2) 岡崎城総構えの試掘調査（六名緑地）について
- (3) 岡崎城跡石垣保存修理基本計画策定事業について
- (4) 菅生川端石垣整備事業について

3 その他

議題及び議事の要旨

1 諮問事項

市指定史跡の史跡範囲の追加指定について【非公開】

2 報告事項

- (1) 旧額田郡公会堂及物産陳列所保存活用計画のパブリックコメント結果について

【社会教育課説明】

国指定重要文化財旧額田郡公会堂及物産陳列所の保存活用計画についてパブリックコメントで市民から寄せられた意見と市の対応について報告した。

【質疑応答】

委員：新たな活用に資すると考えられる団体や組織の利用についての意見は、控室が使えるかどうかという一部のことでなく、広い意味での活用を考えた中でそうした団体をどう位置付けるかという点も検討の課題として入れてほしいという意見ではないか。

委員：活用と書いてあるが、将来どうしていききたいかより具体的な記述がほしい。

事務局：かつて地方史研究会の事務局が郷土館にあったが、現在は美術博物館が所管となっている。修理は完了までには 10 年程度を見込んでおり、活用について現在と修理後の状況が変わってくるのが考えられるため、はっきり書いていない。

委員：実際に動き出してから関係者の意見も聞きながら考えていく必要がある。そう

したなか、管理運営については、利用者の意見を取り入れる仕組みづくりなどと、こうしていくという姿勢と受けとめてもよい記述となっている。実際には、修理を行わなければ使用できないので、基本的な建物を残す作業をしてから活用を考えていくことになる。

委員：保存活用計画を活かしてほしい。どこまでどういう形で進んでいるかを明らかにしながら、今後どのようにしていくのか、引き継ぎ・成果を見極めて進めていく組織としてほしい。

事務局：保存活用計画ができないと次のステップに進めない。10年後には状況が変わることも予想されるので、再度、計画を見直す時期が来るが今回はこの内容とした。現実の運用については引き続き審議会などの意見を聞きながら進めていきたい。

委員：活用についての意見に対して検討するというのであれば、文言として入れても市を制約しないのではないか。活用を前向きに考えている中で、ここだけ限定しているように見える。意見を出した人は、大いに活用したいと考えているのではないか。

事務局：控室などスペースがない中で、特定の団体が安定的に使用できると誤解を招く表現を避けるためこのような回答とした。

委員：市は平等性・公平性の観点からこう書いていると思われる。

事務局：計画の検討委員会で報告事項として完結しているので回答としては変えられない。地方史研究会については、事務局のある美術博物館と今後調整を図りたい。

委員：保存活用計画について、天然記念物では5年毎に見直し検討し、10年毎に改訂するという文言を入れている。国が推奨して作った従来の保存活用計画が機能しなかったのは、改訂されなかったためで、管理されておらずそのままのものもある。修理をした後に保存活用計画を再度検討していくという文言を入れておいても良いのではないか。

委員：実施に当たっては、チェックしながら進めるとよい。

事務局：市で言えば、3年間のローリング方式で見直しながらというように、修復の工程、ソフト事業も重ね合わせながらやっていきたい。

委員：飲食について意見があったか。立地もよく、人が来ると思う。やわらかく運用した方がよい。

事務局：飲食についての協議において、ここで調理は難しいのでケータリングを想定して飲食を可にした。

(2) 岡崎城総構えの試掘調査（六名緑地）について

【社会教育課説明】

旧六名緑地整備に先立ち、岡崎城総構えの土塁と推定される乙川（菅生川）河川敷で平成30年1月に実施した試掘調査について説明、報告した。調査では、近世から近代の可能性のある人為的な盛土層が確認された。

【質疑応答】

委員：総構えの痕跡を確認する調査について、これからも続けていってほしい。

(3) 岡崎城跡石垣保存修理基本計画策定事業について

【社会教育課説明】

今年度策定中の岡崎城跡石垣保存修理基本計画の進捗について説明、報告した。岡崎城跡を史跡として価値付ける石垣について、先ず石垣の本質的価値を把握した上で、石垣の保存修理の基本方針を定めていく。

【質疑応答】

- 委員：環境調査の中に生物調査の項目を是非加えてほしい。絶滅危惧種の希少なクモが3種類ほど確認されており、岡崎城の堀の石垣は貴重である。石を組み換えると絶滅してしまうので、どこにどのように居るか、緒方清人氏の調査を参考にするとよい。
- 委員：石垣は実際に見て触れるというところで、一般の人が興味を持つ入口になり、パンフレットなどを用いることで小学生にも関わってもらえる活用ができるのではないか。
- 事務局：報告書ができた際に、石垣のマップを作る予定。小学校へは、今後要望に応じて案内をすることも通知した。小学生の段階から触れてもらえるようにしていく。
- 委員：石について技術伝承ということも併せてアピールしていくことも大切。滝町等では良質な花崗岩がかなり産出している。岡崎石工の作品が周辺に多く広まっている。価値の指標となる技術・技法についても調査し、「石都岡崎」を総合的に発信してもらいたい。

(4) 菅生川端石垣整備事業について

【社会教育課説明】

今年度、検討している岡崎城菅生川端石垣の整備基本計画について、説明、報告した。顕在化し河川管理上の調整を行いながら可能となる整備方法について検討している。長期的な整備については、400mの長さを顕在化する方向を考えている。

【質疑応答】

- 委員：整備の実施については、やれることから始めていくという展開がよい。整備をやっていることが絶えず見える形をとると、市民の応援が増えてくると思う。

3 その他

観音寺熊毛兜の保存修理について

【社会教育課説明】

今年度、保存修理を実施した市指定有形文化財熊毛兜の修理内容及び終了後の状況について報告した。

次回の審議会 平成30年5月23日(水)に開催予定